

鶴見大学図書館蔵清輔奥書本『和歌一字抄』翻刻

伊 倉 史 人

本稿は鶴見大学図書館蔵『和歌一字抄』を翻刻紹介したものである。

現存する『和歌一字抄』の伝本は、西行、良経、定家等鎌倉中期頃までの歌人の詠を含む増補本、定家の歌のみが増補された中間本（下巻のみ伝存）、後人の増補が一切無い原撰本とに分類することができる（井上宗雄氏^①）。就中原撰本は藤原清輔が編纂した当初の姿を知り得る重要な系統であるが、伝本に恵まれず、上巻は京都女子大学図書館蔵谷山茂旧蔵本以下の五本^②、下巻に至っては大阪青山短期大学蔵伝後光厳院筆本と日比野浩信氏蔵本^③が知られるばかりであった。そうした状況のもと、新たに出現した鶴見大学蔵本は、下巻のみの零本ではあるものの原撰本下巻三本目の伝本であるだけでなく、他

の現存伝本にはない清輔自身による奥書を有しており、『和歌一字抄』の成立の過程を窺い知ることのできる極めて貴重な伝本と言うことができる。本書の解題は別稿（『國文鶴見』第五十二号・平成三〇年三月刊行）に譲ることとして、ここでは書誌を記すに留める。

なお、翻刻に際しては、日比野氏ご所蔵の原撰本下巻の翻刻と対校し、その異同を示した。ご許可いただいた日比野氏には深く感謝申し上げます。

〔書誌〕

綴葉装、一帖（存下巻）。〔江戸初期〕写。打曇表紙（表紫・裏藍）、縦一六・三×横一七・六糎。左肩斐紙短冊「一字抄」（本文とは別筆）。見返し、本文共紙。遊

紙、前一丁、後三丁。内題はない。尾題「和歌一字抄下／已上九百三十首」(65ウ)。標目「証歌」の下に「百十首」とあり。料紙、斐紙。每半葉一二行、字面高さ、約一三・四糎。一首二行書、歌題を約三字下げに記す。墨付、三折六六丁(第一括…五紙二八丁、第二括…一五紙三〇丁、第三括…六紙八丁)。清輔による本奥書あり(65ウ→66ウ)。印記、「天城藏書」(所藏者未詳・飾り付きの四周双辺朱印、前遊紙才に捺す)。

注

- (1) 井上宗雄「原撰本『和歌一字抄』について」(立教大学日本文学第四四号・昭和五五年七月)
- (2) 谷山文庫本の他に、三康図書館蔵本(五・一二三九)、宮内庁書陵部蔵本(二五五・一八〇)、大阪青山短期大学蔵・伝後光厳院筆本、国立公文書館内閣文庫蔵本(二〇二・六一)が知られる。
- (3) 伊井春樹「伝後光厳院筆『和歌一字抄』の本文」(『日本文学史論——島津忠夫先生古稀記念論集』(平成九年九月・世界思想社)。
- (4) 日比野浩信「原撰本『和歌一字抄』下巻」(愛知淑徳大学国語国

文第三九号・平成二八年三月) 及び「和歌一字抄の新出伝本——下巻原撰本としての位置付け——」(愛知淑徳大学国語国文第四〇号・平成二九年三月)。

〔凡例〕

一 鶴見大学図書館蔵『和歌一字抄』を底本とし、日比野浩信氏蔵本(以下日比野本)の翻刻(「原撰本『和歌一字抄』下巻」・愛知淑徳大学国語国文第三九号・平成二八年三月)を対校本に用いた。

二 底本の翻刻に際しては以下の措置を施した。

- a 漢字・假名の別、假名遣、宛字、反復記号は底本のままとしたが、漢字、假名字体は概ね通行のものに改めたに改めた。但し、「哥」「國」「聲」等の若干の正字・異体字は保存した。
- b 誤写、誤脱箇所には(ママ)を付した。
- c 見せ消ちは本文左に傍線を付して表し、訂正は本文右に傍記した。
- d 破損箇所は□で表し、底本の親本(祖本)の段階

で生じたと思われる欠脱箇所は「」で示した。

- e 底本の丁移りは「で示し、丁数と表裏を（）内に記した。

- f 改行は底本の通りとしたが、二行書の和歌は一行書に改め、もとの改行箇所を半角空格を入れて示した。

- g 和歌には、上段に通し番号を、下段には『新編国歌大観』に拠る歌番号を付した。

三 対校本との本文異同を下段に記した。

- a 冒頭の標目目次の異同箇所は、底本の本文を掲出し、その下に対校本の本文を記した。

例 「望」・「望眺望」

- b 「標目」には対校本における標目の有無を記した。

- c 「歌題」「作者」には、それぞれ対校本の本文を示した。

- d 「和歌」はその各句を①～⑤（旋頭歌は⑥迄）で示し、対校本の本文を示した。

- e 校合に際しては以下の方針をとった。

鶴見大学図書館蔵清輔奥書本『和歌一字抄』翻刻

ア 「い」と「ひ」、「お」と「を」、「む」と「ん」

等の仮名遣いの違いはこれを省略した。但し、意味が異なる場合はこれを略さずに掲出した。

- イ 格助詞「の」の有無は異同と認めず省略した。

例 「うの花」「卯花」

ウ 底本及び対校本で、見せ消ちで本文を訂正して

いる箇所についても校合の対象とした（日比野本の翻刻では見せ消ちを左傍に「≡」、右傍に

訂正本文を示すことによって記すが、本稿では、本文左に傍線を付して表し、訂正本文を右傍記する形式に改めた。

エ 日比野本の翻刻では対校本の解説困難な箇所を

■で表し、虫損箇所は推測される本文を（）に入れて示すが、底本との対校に際してもそのままとした。また、不審個所に付された（マ

マ）も保存した。

- f 底本には歌題、作者名のみあって、和歌を欠くものが四首（661・858・871・961）があるが、紙面の都

合上、日比野本の本文を翻刻中に示すことができなかつた。以下に一括して掲出する。

661 さかりなる花のもとには春の日の暮るもしらぬ
物にそ有ける

858 みわたせはのさはのあしもつのくいぬいまは門
田のたねまかせてむ（851の次）

874 いと、しくさひしき秋のゆふくれにまとうつ雨
の音さへそする

961 秋きぬとたけのそのふになのらせてしの、お
すゝき人はかるなり

〔付記〕

本書の翻刻を許可された鶴見大学図書館と、対校本としてご所蔵本の翻刻の利用をお許しいただいた日比野浩信氏には深く感謝いたします。

『一字抄』（表紙・外題）

客	友	誰	獨
百一	百二	百三	百四
越	過	招	来
百六	百七	百八	百九
臨	入	遇	不逢
百十一	百十二	百十三	
留	不留	宿	帰
百十六		百十八	
尋	傳	望	見
百廿一			
不聞	待	惜	悔
驚	興	翫	愛
不擇	勝	戴	移
不拂	荒	亡	碎
凌	踏	結	閉
告	伴	談	契
意	思	知	不知
忘	不忘	狀	不飽
比	寄	依	不依
纔	自	未遍	猶

「（遊紙一丁）」

動	不來	對	不帰	聞	鳴	擇	拂	冒	染	催	不弁	交	及	各
百五	百十	百十五					（1才）	侵						

（釋歌）
 ＊日比野本内題「和歌一字抄」付証哥百十首」
 「百一」以下の番号ナシ

「望」…「望眺望」、「見」…「見看」、
 「聞」…「聞聴」
 「不聞」…「未聞」

「驚」…「驚駭」、「擇」…「択撰」

「不擇」…「不択無撰」

「勝」以下「亡」迄ナシ、「已」と記す

「凌」…「凌凌」

「意」…「意情心」、「思」…「思憶」

「不忘」…「不忘未忘」、「不飽」…「未飽」

「猶」…「猶尚」

不改	不實 ^(ママ)	同	似	如
不如	每	皆	不足	多 ^(1ウ)
少	有	無	一	不一
不定	為	言志	即事	證歌
已上				

客

客依月来

三条大納言

1 597 わすれにし人もとひけり秋のよは月ではとこそまつへかりけれ

樹陰留客

顯季卿

2 598 あふさかのせきならねとも夏やまのこのした影も人はとめけり

野花留客

俊頼朝臣^(2オ)

3 599 あきくれはやとにとまるを旅ねにてのへこそつねのすみか也けれ

行客吹笛

家経朝臣

4 600 ふえのねは月にたかくそきこゆなる道のそらにてよやふけぬらむ

同座

藤経衡

5 601 たひ人のふきてすくなる笛のねをまつやとあらはきぬときく覽

〔如〕…〔如 不如〕

〔不如〕…〔如〕の副表題、〔不足〕…〔不与〕

〔為〕…〔為^作〕、〔即事〕…〔即事〕

〔已上〕…ナシ

〔標目〕ナシ

④月^{てはと}いいて、こそ

〔作者〕顯季

〔作者〕俊頼

⑤住家なりけり^れ

〔歌題〕野客吹笛 〔作者〕家経

〔歌題〕ナシ

④まつやとならば⑤きぬときかまし

友

向花忘友

無名

6
607

花さくらにほふをあかすなむれはたのめし人そいと、恋しき」(2ウ)

月前待友

藤家経朝臣

7
608

あきよりもみる人ひさし夏のよの月には人をまつへかりけり

花前待友

俊頼朝臣

8
609
a

ちらぬまは花をともにて過ぬへし春よりのちの「」

雪中待友

同人

9
610

こぬもうしいさ、はまたし山里につもれは雪はともならぬかは

花春友

花園左大臣

10
609
b

ちらぬ間ははなをともにて過ぬへし春よりのちのしる人もかな」(3オ)

泉為夏友

俊頼

11
611

たつの市のうるまのし水す、しくてけふはかひあるこ、ちこそすれ

虫為夜友

同

12
612

秋のよをたれと、もにかあかすらむむしの音きかぬ人にとは、や

月每秋友

同

13
613

おもひくまなくてもとしのへぬるかなものいひかはせ秋のよの月

月旅泊友

忠命法橋

〔標目〕ナシ

〔作者〕ナシ

④ たのめしほとそ

〔作者〕家経

② みるほどひさし

* 日比野本 86a ナシ

〔作者〕俊頼

④ つもれる雪も

〔歌題〕花為春友〔作者〕同(俊頼)

〔作者〕同

① たつのいけち ④ けふそかひある

② 誰もともにか

〔歌題〕月旅宿友

14 615 草まくらこのたひに(マ)にそ思ひしる月よりほかのともなかりけり」(3ウ)

松作千年友 経信卿

15 618 うへてみるちとせの松のこたかさにわか老らくのおもほゆるかな

松廻年友 顕季卿

16 619 千とせましてすむへきやとのためしにといはねの小まつけふそうへつる

松久友 俊頼朝臣

17 620 きみもしるまつも二葉の昔より久しくも代をすき」

誰

遠花誰家 坂上定成

18 622 よそなからおしき桜のにほひかな」(4オ)たれわかやとのはなとみるらむ

卯花誰牆 太政大臣

19 623 かみ山のふもとにさけるうの花はたかしめゆひしかきね成らむ

卯花誰家 俊頼朝臣

20 624 なにかとふをのかかきねの卯花を見ぬにてしるもの、ふそとは

獨孤

獨聞郭公 藤経衡

21 625 われならぬ人はねにけりほと、きすき、やしつるとたれにとはまし

月照孤身」(4ウ)

②このたひねにそ

〔歌題〕松為千年友〔作者〕経信

〔歌題〕松廻年友〔作者〕顕季

③ためしとて

〔作者〕俊頼

②松もむかしの③ふたはより

⑤過にけるかな

〔標目〕ナシ

〔作者〕俊頼

①なにかその②おのかかきねの

④みぬにてしりぬ

〔標目〕ナシ

〔作者〕師賢

22 626 みなれさほとらてそくたすたかせ舟月の光のさすにまかせて

動

晚風動簾

行宗卿

〔標目〕ナシ

23 629 ゆふされはこす吹かへすあきかせにおそふるそてのしとろなるかな

越

越山見花

俊頼朝臣

②みすふきかえす④おさふる袖の
〔標目〕ナシ

24 630 白妙の花のこすゑにめをかけていそしのみねをおりそわつらふ

夏日越関

④いふきのみねを⑤おりそわつらふ
〔作者〕俊頼

25 631 夏くれはゆきかふ人をあふさかの」(5オ)せきはしみつにまかせてそみる

過

時鳥暁過

行宗卿

〔標目〕ナシ

26 632 天の戸を、しあけかたのほと、きすいつこをさしてなきわたるらむ

招

花招客

永源

④いづくをさして
〔標目〕ナシ

27 633 ほりうへしかひもあるかなさくら花ゆきかふ人も過かてにして

橘為仲朝臣

〔歌題〕同〔作者〕橘為仲

28 634 春ならぬおりにも人をとひしかは花ゆへとのみおもひしもせし」(5ウ)

⑤おもひしものを

来

依月客来

永源法師

われひとりなかくてのみやあかさまし今夜の月のお。ろ也せは

客依月来

三条大納言

わすれにし人もとひけり秋のよは月てはとこそ待へかりけり

秋来水邊

藤時房

ふくかせも岩もる水もす、しきは山川よりやあきはたつらむ

泉聲来枕

太政大臣

音きけはむすはぬ草の枕さへ」(6才)す、しかりけり宿のましみつ

水風晚来

顕季卿

ゆふつくよむすふいつみもなけれ共しかのうらかせ涼しかりけり

樹陰風来

俊頼朝臣

日さかりはあそひてゆかむかけもよしまの、萩原かせたちにけり

不来

雖契不来恋

関白

こぬ人を恨もはてし契をきしそのことの葉もなさけならすや

同

顕輔卿」(6ウ)

中くいたのためさりせはみちのくのとふのすかこもなかにねなまし

〔標目〕ナシ

⑤おほろなりせは

②人しとひけり ③山里は

⑤まつへかりけれ

①吹風に ④山かけよりや

〔作者〕顕季

②むすふ泉は

〔作者〕俊頼

〔標目〕ナシ

〔歌題〕雖契不来恋

〔作者〕顕輔

臨

緑松臨池

恵慶法師

たれにとかいけの心もおもふらむそこにやとれる松のみとりを

柳臨池水

通宗朝臣

あをやきのうつれるかけを池水のそこたまもとおもひけるかな

菊花臨水

行宗卿

よし野川きしの白きくさきにけりおりくるなみに色やまかはむ」(7オ)

毎朝臨菊

顕季卿

きくのはなさきぬるときはめかれせず　いく朝露のをきてみつらむ

臨老惜花

顕仲入道

老ぬれはわれかよはひもあたなるにまつちるはなのおしまるゝ哉

入

落花入簾

顕季卿

さくら花みすのまとをに入かちにちりさへけさはらはさりけり

山月入簾

頼経朝臣

あらはにやうちもみゆらむたまたれの」(7ウ)　やまのはいつる月のひかりに

同座

藤隆資

あしひたくこやのこすには山のはの月より外はいるひともなし

〔標目〕ナシ

⑤松のちとせを

〔作者〕通宗

〔作者〕行宗

⑤色やさかはむ^ま

〔作者〕顕季

②咲ぬるおりは

〔歌題〕臨老惜花　〔作者〕顕仲

〔和歌〕ナシ

〔標目〕ナシ

〔作者〕顕季

②みすのまとをり　③ちるからに

⑤はらはてそみる

〔作者〕頼綱

③玉すたれ

④月よりほかに⑤いるものもなし

松聲入夜琴

齋宮女御

45
651

ことのねに峯のまつかせかよふらしいつれのをよりしらへそめけむ

同

同

46
652

まつかせのをとにみたる、琴のねをひけは子日のこ、ちこそすれ

泉聲入夜寒

師賢朝臣

47
653

さ夜ふかき岩井のみつの音さけは」(8オ) むすはぬ袖もす、しかりけり

遇逢

泉邊逢友

行宗朝臣

48
655

おもふとちさそふいつみの水なくは袖さしかはしまとゐせましや

不逢

違不逢

俊頼朝臣

49
658

たまゆかのをしまのはしにたはふれてこゝろはゆきぬ君なけれども

憑不會恋

顯國朝臣

50
659

あひみむとたのむれはこそくれはとりあやしやいか、立かへるへき」(8ウ)

對向

對月惜花

相模

51
660

よのうちはちりをこたらは桜花 月みてものはおもはさらまし

對華日暮

永源

②音もみたる、③琴のねに

〔作者〕師賢

①小夜更で

〔標目〕ナシ

〔作者〕行宗

①おもふとて③水ならば

〔標目〕ナシ

〔作者〕俊頼

②おしまのゆかに

〔作者〕顯國

④あやしやいかに⑤立帰るらむ

〔標目〕ナシ

〔歌題〕對月惜花〔作者〕相模

52
661

「

」

*日比野本S「アリ（↓凡例）」

夕對卯花

資仲朝臣

「作者」資仲

53
662

月にこそふせやの簾あけしかとうのはなにもたまたおろされぬかな

對水待月

藤基俊

「作者」基俊

54
663

夏の夜の月まつほとのですさみに」（9オ）いはもるしみついくむすひしつ

對泉述懷

俊頼朝臣

「作者」俊頼

55
664

身のうきにしみかへりたるなけを^マは玉井の水もみやはきよめぬ

對月待秋

懷円法師

「作者」懷円法師
②しみかはりたる ③なけきには
⑤あや^え（は）き（よ）めぬ

56
665

見るほともなくてあけぬる夏のよの月につけても秋そまたる、

對山待月

土御門右府

57
666

ありあけの月まつほとのうちた、ねは山のはのみそ夢にみえける

對家花思野花

嘉言

58
669

わか宿にためしはかりの花をみて」（9ウ）そらに嵯峨の、あきをしる哉

對菊惜秋

大江廣経朝臣

「作者」大江広経
①わかやと^にの ③花みせて

59
670

うつり行きくをみてこそ歎かるれいかにせはかは秋のとまらむ

同座

源時綱

60
671

心なきやとの菊たにうつろへはいか、はすへきあきはつるをは

①こゝろなる ②あき^宿の菊たに
⑤秋はつるとは

留

牆柳留客

経信卿

61
672

あをやきのいとし垣ねになみよれはいかゝはすへき秋はつる「」

山花留人

祭主公長「(10才)」

62
673

おのゝえは木のもとにてや朽なまし春とかきらぬさくらなりせは

卯花留客

俊頼朝臣

63
674

うのはなのさかりならすは山里にくる人ことになかぬせましや

同座

源雅光

64
675

卯花の盛になれば山かつのかさねしもこそ過うかりけれ

郭公留客

俊頼朝臣

65
676

たかために旅ねをすれはほとゝきすまたもななてさよふかすらん

野花留客

同「(10ウ)」

66
677

あきくれはやとにとまるを旅ねにてのへこそつねのすみかなりけれ

紅葉留客

素意

67
678

ふる郷にとふ人あらはもみち葉のちりなむのちをまてとこたへよ

留船聞鶯

國基

68
679

きゝすてゝ過しゆかねは鶯のこゑはふなちのとまり也けり

残菊留秋

顕季卿

〔標目〕ナシ

〔作者〕経信

④たちよる人も⑤たへぬ成けり

④春をかきらぬ

〔作者〕俊頼

⑤住うかりけれ

〔作者〕俊頼

④声ぞふるちのはい

〔作者〕顕季

69 冬に今はなりぬときけとたのまれすときとそみゆるしらきくのはな

同 俊頼朝臣「(11才)」

70 おしまれて花ふく秋もうつろへるきくをはえこそみすてさりけれ

不留

来不留恋 顕季卿

71 玉つしまきし打なみのたちかへりせないてましぬなこりさひしも

同 俊頼朝臣

72 おもひ草はすゑに結ふしら露のたま／きては手にもたまらず

宿

露光宿菊 無名

73 かさしにはおらまほしきを白菊の「(11才)」花にやとれる露やこほれむ

旅宿螢火 源雅光

74 よもすからほたるはかりはほのめけと人かけもせぬ草まくらかな

旅宿待月 頼家朝臣

75 おほつかな有明の月の出ねかしいかなるやまのふもとなるらむ

月前旅宿 顕季卿

76 松かねに衣かたしきよもすからなかむる月をいもみるらんか

旅宿月 三条大納言

①冬にいま④時そとみゆる

⑤白(き)くのはな

「歌題」同座「作者」俊頼

②はとふく秋も④菊をはえこそ

「標目」ナシ

「作者」顕季

「歌題」同座「作者」俊頼

「標目」ナシ

⑤いもやみるらん

「作者」顕季

「作者」頼家

77 689 われこそはあかしの里に旅ねせめ」(12才)おなし水にもやとる月かな

旅宿落葉

俊頼朝臣

78 690 ふきはらふ嵐とゝもにたひねするなみたのところに木のはもるなり

ゝゝ時雨

瞻西上人

79 691 いはりさすならのこかけにもる月のくもるとすれは時雨ふく也

ゝゝ冬夜

経信卿

80 692 旅ねするよとこさえつゝあけぬらしとこたそかねのこゑきこゆ也

ゝゝ雪

顕季卿

81 693 松かねに尾花かりしきよもすから」(12才)かたしく袖に雪はふりつゝ

帰

郭公欲帰

行宗卿

82 696 けふはさはこゑなをしみそ時鳥かへるやまちのかたみにもせむ

ゝゝ帰山

83 697 ほとゝきす二村山をたつねみむいりあやのこゑやけふはまさると

帰路落葉

顕季卿

84 698 家にいものはくものふるまひしるからんみちさまたけにちるもみち哉

不」(13才)

喚不帰

俊頼朝臣

〔作者〕俊頼

④涙もともに⑤このは(お)つなり

⑤しくれふるなり

〔作者〕経信

④とひとふかねの

〔作者〕顕季

①まつかたとに⑤雪は消(え)つゝ

〔標目〕ナシ

⑤かたみにも(せ)む

〔作者〕顕季

〔作者〕ナシ

〔標目〕ナシ

〔作者〕俊頼

85 699 みかりのにかさなかれせし箸たかのこゑにもつかぬうらみをぞする

尋

山家尋人

範永朝臣

86 700 たつねつる宿はかすみにつもれて谷のうくひす一こゑぞする

暁尋人

顯季卿

87 701 夢さめていそきそきつる山桜あさふく風のたえぬさきにと

尋聞時鳥

橘成元

88 703 はる／＼と生田の森にたつねてそ」(13ウ) 山ほとゝきす一こゑもきく

傳

風傳隣花

坂上定成

89 705 さくらちるとなりにとふ春風は花なき里そうれしかりける

人傳聞時鳥

関白

90 706 ほとゝきす過つとかたる人ことにいくたひとひつあかぬあまりに

望 眺望

望山花

範永朝臣

91 707 霞たつとやまの花もさきにけりみにつむ雪を春のけてかし」(14オ)

山家望月

藤隆資

92 708 もろともにすむむなくは山里に「 「秋のよをあかさまし

②かさなかれする ④こゑにとつかぬ

【標目】 ナシ

【作者】 範永

【歌題】 暁尋花【作者】 顯季

①夢さまし

③尋きて

【標目】 ナシ

①さくらさく ④花なき(さと) そ

②きゝつとかたる

【標目】 ナシ

【作者】 範永

④ふりつむ雪を ⑤春の(けて) かし

④ひとりや秋の

水邊望天河

兼澄

93
709

君かよにはしめてすめる水なれはあまの川なみたちかよふらし

水邊望秋

経信卿

94
710

もみち見し折ならねとも大井かは秋のけしきのあさからかな

山居夕望

隆信卿

95
711

いりしより都のかたをなかめつゝ山のたかねにけふもくらしつ」(14ウ)

海上夕望

國基

96
713

よもすからいさりやせまく夕暮におきつしまへにかよふあま舟

遠望

関白

97
714

天の原こき出ゝみれは久かたのくもゐに見ゆる奥つしらなみ

旅宿

良暹

98
715

わたのへやおほえのきしに旅ねして雲ゐに見ゆるいこま山哉

野経眺望

顕輔卿

99
716

ますらをかあさふくのちをみわたせはくもゐをかけてかへるたくなは」(15オ)

雪中眺望

関白

100
717

くれなひに見えし梢もゆきふれはしらゆふかくる神なみのもり

見

月前見花

匡房卿

③月なれは

〔歌題〕水辺秋望〔作者〕経信

④秋のけしきも⑤浅からぬ哉

〔歌題〕山居眺望〔作者〕隆俊

⑤けふ(も)くらしつ

〔歌題〕海上晚望

②いさりやすまの

④雲居にま(か)ふ

①わたなへや

〔歌題〕野径眺望〔作者〕顕輔

②あさむつのへを⑤かへる(たく)なり

〔作者〕ナシ

〔標目〕ナシ

〔歌題〕見月前花〔作者〕兼房

101 720 月かけにはなみるよはのうき雲はかせのつらさにおとらさりけり

晩見藤花 俊頼朝臣

102 721 紫にいくしほそめて藤のはなゆふ日さかきのはいをさすらん

晩見野花 同

103 722 暮ぬとも花のあたりにやとりして」(15ウ) あきは野守の人にいはれむ

雪中見松 為義朝臣

104 723 あまたとし雪はつめともわか宿のまつのみとりはかはらさりけり

聞 山家聞鶯 経信卿

105 725 うくひすのねこそはるかにきこゆなれこや山里のしるし也らむ

夜聞時鳥 俊頼朝臣

106 726 明はまつちらさておらん郭公はなたちはなの被^{カミ}になく也

山家聞鹿 経信卿」(16オ)

107 727 秋ふかみ山かたそひに家ゐしてしかのねさやになけはかなしも

晩聞擣衣 橘為仲朝臣

108 728 あくるまてしてうつこゑのたえせぬはたかためいそく衣なるらん

旅宿聞笛 俊綱朝臣

109 729 草枕むすふねさめのふえのねにふきあはすなり峯のまつかせ

鶴見大学図書館蔵清輔奥書本『和歌一字抄』翻刻

〔作者〕 俊頼

④夕日^タま^カさの⑤はるを(さ)すらむ

〔歌題〕 晩見野^花草

④秋はの。りと

〔作者〕 為頼

④松のみとりそ⑤かはら(さ)りける

〔標目〕 ナシ

〔作者〕 経信

〔作者〕 俊頼

①あけは^マ⑤は^マたに鳴なり

〔作者〕 経信

②山かたさひ(じ)④鹿のねさへに

⑤きけはかなしき

〔作者〕 橘為仲

③たえせね(は)⑤衣なる(ら)む

〔作者〕 俊綱

夜聞落葉

橘則季

110
730

よはにちるをとほすれとも紅葉、の色をみねはしくれと思ふ

旅鴈聞雲

惠京〔16ウ〕

111
731

ゆく鳥と雲ちをならす鴈金のつねに旅とは思さるらむ

未聞

不聞郭公

顕季卿

112
732

夏衣たちきる日よりけふまではまつにきなかぬほと、きす哉

待

山家待花

同

113
734

あしひきのかた山きしに家居して峯のさくらはなまつわれは

對月待時鳥

為儀朝臣

114
735

かくてのみなかななりなは郭公〔17オ〕月をのみ、る身とやなりなむ

待聞郭公

顕季卿

115
736

なつ衣たちにし日よりほと、きすぬる夜もなしに今ぞ鳴なる

待草花

116
737

思ふとち露うちはらひみにゆかん花の、萩のはやもさきなむ

萩盛待鹿

白川院御製

117
738

かひもなき心杜すれさをしかのたつこゑもせぬ萩のにしきは

④色をしみねは

〔作者〕 惠慶

①行くところと⑤おもはさら南

〔標目〕 ナシ

〔歌題〕 未聞郭公〔作者〕 顕季

③けふまで。

〔標目〕 ナシ

⑤花まつわれぞ

〔作者〕 為義

③なかななりせは

〔作者〕 顕季

〔作者〕 同

①おもふとて②露うちはらふ

⑤はやもさかなん

〔歌題〕 萩盛待鹿

⑤萩のにしきは

秋夜待月

三宮

118 739 あきのよの月は山ちにいてねとも」(17ウ)かねて心にいりにけるかな

田家待月

俊頼

119 740 はやく出、門田にやとれ秋の月葉のほる露のかすやみゆると

船中待月

嘉言

120 741 たかせ舟さほのたちともみえぬ哉月をのせてそいつへかりける

待秋夜月

六条宮

121 742 またちらぬさきにもみちをみるへきになか月影のいてかてにする

山家待春

頼家朝臣

122 743 山里にあさはの煙たなひくを」(18オ)はるにさきたつ霞とおもはん

雪中待春

源能基 兵部少輔

123 744 ゆきふかき山かくれる鶯もわれはかりこそはるをしるらめ

待客聞郭公

顕季卿

124 745 もろともにきかましものをほと、きすたのめし人のはやきまさなむ

雨中待人

俊頼朝臣

125 746 あめふりしひはあやにくにこし物をこはたれなれやをとつれもせぬ

花残待人

國基

126 747 尋くるひともやあるとあしひきの」(18ウ)山したかけに花そのこれる

②月は山路を

④はのほる月の

②さきにもみちも④なかつき(か)けの

『歌題』山家待月^春「作者」頼家

②あさけのけふり

『作者』注記ナシ

①雪ふかし②み山かくれの③鶯の
⑤春をまつらめ

『作者』顕季

『作者』俊頼

④山し(たか)けに

惜

老人惜花

範永朝臣

127
750

ちる花もあはれとみすや石の上ふりはつるまでおしむ心を

老人惜春

橘俊成 越中守

128
751

おいてこそ春のおしさはまさりけれ今いくたひもあはしとおもへは

夏夜惜月

輔親卿

129
752

なつの夜の雲ちは遠くなりまされかたふく月の行やらぬまで

終夜惜秋

藤隆賢〔19才〕

130
754

明ぬとも商の名残とみゆはかり霧たにしはし立とまらなん

悔

悔離別

俊頼朝臣

131
755

今さらにもかへさめやいちしるきあすはの宮にこしはさすとも

悔会合

同

132
756

いにしへを思へはかなししめのうちさかさすまはおりましものを

鳴

鹿鳴秋菰

無名

133
757

した葉よりも思はきにいとゝし〔19才〕く鹿のねをさへなきてきかする

旅馬鳴雲

俊頼朝臣

〔標目〕ナシ

〔作者〕範永

②あなれとみすや

〔作者〕注記ナシ

⑤あはし（一）おもへは

〔歌題〕終（夜）惜秋

④きくたにしはし⑤立とまりなん

〔標目〕ナシ

〔作者〕俊頼

①今さら（一）③いちしるく

④はすのみや（一）

〔作者〕ナシ

②おもへ（はか）なし③しめのうちに

〔標目〕ナシ

〔作者〕俊頼

134
758

はつかりのなきつる空のうき雲をとりのあと、も思ひけるかな

驚駭

花駭定心

永源

ともすれはよにも山邊にあくかれて方^(マコ)におられぬはなさくらかな

擣衣驚眠

俊頼朝臣

ころもうつきぬたの音に夢覺てことそともなくぬる、袖哉

郭公驚眠

藤永実」(20才)

まちかねてまところめは又きなく也人くるしめのほと、きすかな

同座

俊頼朝臣

またすてふわかなもたてし時鳥なきをこしつと人にかたるな

郭公驚夢

藤原定俊

待かねてまところむ夢に郭公きくとみつるはうつ、也けり

同

太政大臣

おとろかす聲なかりせはほと、きすまたうつ、にはきかすやあらまし

浪聲驚夢

源重之」(20ウ)

恋しさは夢にのみこそなくさむれつらきは浪のこゑにそ有ける

興

秋花催興

顕季卿

⑤おもひけ(る) かな

〔標目〕 ナシ

②よもの山へに④ゆかはおられぬ

〔作者〕 俊頼

④ことそともな(く)

〔作者〕 俊頼

①またぬてふ⑤人にか(た)るな

④きくとみつるや

〔歌題〕 波声驚夢

④つら(き)は波の⑤音にそ有ける

〔標目〕 ナシ

〔歌題〕 秋花(催)興〔作者〕 顕季

142
767

世と、もに野へに心やあくかれむもとあらのはきの花しちらすは

田家秋興

匡房卿

143
768

秋くれは朝けの風の手をさむみやまたのひたにまかせてそ聞

同

仲実朝臣

144
769

夕されは蘆の丸やにそよはしてかたのいねに秋かせそふく」(21才)

同

俊頼朝臣

145
770

山田もるきそのふせやに風吹はあさつたひして鶉なくなり

河邊興

同

146
771

をかみ川かきのはひえにあゆつりてあそふもさめぬそこのおもへは

翫

樹陰翫泉

贈左大臣

147
772

松かねに岩もるし水むすふよはわか身ひとつに秋はきにけり

翫野花

師賢朝臣

148
773

さらぬたに心のとまる秋のゝに」(21ウ)いと、もさむく花す、きかな

翫池上月

白河院御製

149
774

池水にこひの月をうつしものこゝろのまゝにわかものとみる

翫宮庭菊

長房卿

150
775

あさまたき八重さく菊のこゝのへに見ゆるは霜のをける也けり

⑤花しちらねは

『歌題』田(家) 秋興『作者』兼房

④やまたのひたを⑤まかせてそみる

『作者』仲実

①ゆふされ(の)③そよかれて

④門田のいなは⑤ときつかせ吹

『作者』俊頼

②□きはふせやに④あせつたひして

⑤うつらおとなふ

②秋のはひえに④あそふもさめす

⑤そのおもへは

『標目』ナシ

『作者』贈太政大臣

④わ(か)身ひとつに

⑤秋(は)来(にけ)り

『作者』師賢

④いと、もまねく

『作者』白河院

②こひの月を③うつしめて

『作者』長房

女郎翫露

源仲正

151
776

をみなへしけさはすかたのまさる哉つゆのむすへる花かつらかな

愛

毎年愛花

三宮〔22才〕

152
779

としことにちれば物おもふ花の色を身にといさなふわかこゝろ哉

擇撰

擇紅葉

宇治前太政大臣

153
780

いつれをか心にとめんしくれつゝくれなひふかくてる紅葉ゝは

同

藤兼房

154
781

もみちはゝみなくれなるに成にけりいつれやしほに過てみゆらむ

同

平棟仲

155
782

かつみてもあかす尋るもみち哉〔22ウ〕こきよりあかき色はありやと

不擇 無擇

月不擇處

経信卿

156
785

久かたの雲にかゝれる空の月いつれのさとも鏡とぞみる

同

顕季卿

157
786

柴のとも玉のうてなも空はれておなしこゝろにすめる月哉

花無擇所

同

鶴見大学図書館蔵清輔奥書本『和歌一字抄』翻刻

〔歌題〕 女郎花翫露〔作者〕 源仲通

⑤ 玉かつらかな

〔標目〕 ナシ

② 心にそめん⑤てれる紅葉ゝ

〔標目〕 ナシ

④ いつれかしほに

〔作者〕 平棟仲

④ 去年よりふかき

〔標目〕 ナシ

〔歌題〕 月（不） 扱処

② そらにかゝれる③ 雲の月

〔作者〕 顕季

① 柴の庵（も）⑤ すべる月影^歳

158 787 いつくともわかぬ桜の花なれば たつねいたらぬくまのなきかな

勝」(23オ)

瞿麦勝衆花 家経朝臣

159 788 たつた姫ことにや染し春も秋もとこなつにしく花のなき哉

同座 経衡

160 789 千とせへむ君そしるへきとこ夏ににほひ、としき花はありやと

秋依月勝 橘俊宗

161 790 なにことに春の曙おとらましさやけき月の秋なかりせは

秋月勝春花 為儀朝臣

162 791 みるほともなくてちりにし花よりものとけき秋の月はまされり」(23ウ)

落葉勝花 三条大納言

163 792 花よりもこゝろそとまる深草の枯の、うへにちれるもみちは

戴

白菊載霜 藤成高 西市正

164 793 いつのまにむすほ、れてか白露のまたうつろはぬきくに置らん

庭草載雪 範永朝臣

165 794 おきの葉にふりかゝりたる雪みればわかもとゆひそまつしられける

同座 隆経朝臣

②わ(か)ぬさくらの③色なれば

「標目」ナシ

「作者」家経

⑤花な(か)りけり

「歌題」同

①千とせつむ④匂ひ久しき

⑤花はあ(り)やと

⑤かけなかりせは

「作者」為義

③冬草の

「標目」ナシ

「歌題」白菊載霜「作者」注記ナシ

⑤菊におくらむ

「歌題」庭草載雪「作者」範永

「歌題」同「作者」隆経

166 795 としふかく庭の草はも成ぬれは」(24オ) 雪をいた、くものにそ有ける

移

庭移秋花

京極前太政大臣

167 796 吾宿にあきの、へをはうつせりとはな見にゆかん人につけはや

野華移庭

心ありて露を、くらむのへよりもにほひまされる秋はきの花

拂

柳拂池水

経衡

169 798 池水にみ草もとらて青柳のはらふしつゝえにまかせてそみる」(24ウ)

風拂落花

賀茂成助

わかこゝろいかにせよとてちりつもる 花さへかせのさそふなるらん

旅宿拂霜

國房

ものさひし旅ねの床にかた敷のそてしてはらふ冬の夜の霜

不拂

見花不拂庭

嘉言

花ちれば手もふれてみる庭の面を心にあらすかせやはらはん

惜花不拂庭

兼澄

173 802 はるのうちはちりつもととも清めせし」(25オ) 花に「

」

②庭の木の葉も

【標目】 ナシ

④花みにゆ(か)む

【作者】 範永

②露やをくらむ

【標目】 ナシ

【歌題】 柳(私) 池水

①池水の⑤まかせてそみつ

②い(かに)せよとて④花さへさそふ

⑤風のなからむ

④袖もてはらふ⑤冬の夜の月

【標目】 ナシ

④心にもあらて

②ちりつ。るとも③きよめせて
④花にけかる、⑤やとりしならむ

同

為義朝臣

174
803

さくら花庭もはたらにちりつめとにほひをおしみたゝにこそみれ

荒

②にはもはたれに⑤たえすこそみれ
〔標目〕 ナシ

荒屋聞虫

嘉言

175
804

わかやとは浅茅か原にあれたれとむしのねきくそとり所なる

亡

〔標目〕 ナシ

月照亡屋

俊頼朝臣

176
805

ねやのうへにひまをかそへてもる月は空よりもけにくまなかりけり

碎」(25ウ)

①闇のうちの
〔歌題〕 月照荒屋〔作者〕 俊頼
〔標目〕 ナシ

風碎野花

仲正

177
806

身のうさは野分にあへる花なれやちりひちになるこゝち杜すれ

冒

⑤心こそすれ
〔標目〕 ナシ

冒雨見花

俊頼

178
807

ちる花のしづくにぬるゝ花なれはかはくもおしき物にそ有ける

凌

③袖なれは
〔標目〕 ナシ

野径凌花

橘俊宗

179
808

露しけみ小野ゝ萩原過ゆけははなすり衣きぬ人そなき

同座

源師光」(26オ)

①露しけき⑤きぬ人そ(な)き
〔歌題〕 同

180 809 衣手にうつしてをみむ花の色^色わけてそきつるのちの朝露

踏

山路踏花

大江廣経朝臣

181 810 おしと思ふはなとみれともいか、せむよきて行へき山ちならねは

結

柳結落花

花園左大臣

182 811 散はなのやなきのいとにむすはれてあらぬしつえに、ほひぬるかな

庭樹結葉

経信卿

183 812 玉かしは庭もはひろに成にけり」(26ウ)こやゆふして、神まつる比

同座

匡房卿

184 813 庭のおもは月もらぬまで成にけりこすゑに夏のかけしけりつ、

水結浪不起^{ママ}

六条宮

185 815 朝水にほもかよはす成にけりなにをよすらむたこの浦なみ

谷水結氷

花園左大臣

186 816 たに川のとみに結ふ氷こそみる人もなきか、み也けれ

閉

氷閉水鳥

俊頼朝臣」(27オ)

187 817 夜を寒むすふ氷や水とりのかつく岩間のせきとなるらむ

鶴見大学図書館蔵清輔奥書本『和歌一字抄』翻刻

③花の色を④わけてそ(き)つる

〔標目〕ナシ

〔作者〕大江広経

①おしと(み)る③いかにせむ

〔標目〕ナシ

〔歌題〕柳(結)落花

〔作者〕経信

①玉かし(は)④こや夕しての

〔歌題〕已上同座〔作者〕兼房

⑤日かすつもりて

〔歌題〕氷結波不流

②水もかよはず

⑤うらみなりけり

〔標目〕ナシ

〔作者〕俊頼

①夜をさむみ

氷閉河水

同人

七六

飛鳥かは測はこほりにとちられていかてかせにも成かはるらむ

氷閉池水

同

よもすから真のゝかや原さえくゝていけの汀も氷しにけり

染

梅香染衣

橘則長

〔歌題〕梅花染衣

〔標目〕ナシ

梅かゝの袖にうつりて今夜さへいもかあたりとおもひけるかな」(27ウ)

池水染藍

行宗卿

いけ水を誰かそめけむみそのよのあるより色のふかくみるゆは

霰染紅葉

俊頼朝臣

ふりきらす時雨にたへて鏡山かけみゆはかり紅葉しにけり

告

梅告春近

顕季卿

〔歌題〕梅告春色〔作者〕顕季

〔標目〕ナシ

雪のうちにつほみにけりな梅花はるあけかたになりやしぬらん

鶯告春

俊頼

春そとは霞にしるし鶯の花」(28オ)のありかをそことしらなむ

晚風告秋

同人

夕されはわひしきかせにおとろけは萩の葉そよき秋はきにけり

〔作者〕同

②たれかそむらん③みそのふの

〔歌題〕霰染紅葉〔作者〕俊頼

①ふりきふす③かゝる山

④かけみるはかり

④春あ(け)かたに

③鶯よ⑤そことつなむ

〔作者〕同

①ゆふまくれ②わひし(き)風に
④萩のはそよ⑤秋は(き)にけり

195
825

194
824

193
823

192
822

191
821

190
820

189
819

188
818

草花告秋

源縁

つきにけりくちなし色の女郎花あはねとしるし秋のけしきは

同題

雅兼卿

さきそむるあしたの原のをみなへしあきのしらするつまにそ有ける

二首同座

顕季卿

露結ふあきにははやく成にけり」(28ウ) 浅茅か原のうつろふみれは

伴

客伴月来

源仲正

と、めはや今夜の月にさそはれてあくかれきたる人のこゝろを

談

月前談往事

俊頼朝臣

ありし世を昔かたりになしはて、かたふく月をとともとみるかな

契

花契千年

匡房卿

いはねとも色にそしるき桜花」(29オ) 君かちとせの春のはしめは

菊契千年

顕季卿

色もかもむつまじき哉さくの花千とせの秋のかさしと思へは

落葉契千秋

橘則季

①さきにけ(る) ④いはねとしるし

〔歌題〕同 〔作者〕雅兼

④秋をしらする

〔歌題〕二首同座 〔作者〕顕季

④あさちかはらに ⑤うつろふ(み)れは

〔標目〕ナシ

④あくかれ(き)たる

〔標目〕ナシ

〔作者〕俊頼

⑤友とする哉

〔標目〕ナシ

〔作者〕兼房

⑤春のはしめを

〔作者〕顕季

⑤かたみとおもへは

203
839

ちる花のおしまるゝ哉もみちはをみるへき秋はちとせとおもへは

花契還年

待賢門院中納言

204
840

うへてみるきくもひさしの菊のはなともにちとせの契とそする

松

俊実卿

205
841

水の面に松のちとせのみちぬれは」(29ウ) ちとせは池の心なりけり

鶴

顕季卿

206
842

むれぬたるつるのけしきにしるき哉千とせすむへき宿の池水

松樹契久

俊頼朝臣

207
843

位山ひさしきまつのかけにゐてたのむ身さへもとしをふる哉

水石

同 堀川院御時所衆
和哥會代人

208
844

仙川^{ついで}をたれそのかみにせきそめてたえぬ岩間の瀧となしけむ

催

郭公催恋

同 (30オ)

209
849

いと、しく袖ぞしほるゝほとゝきすなくねやこひのしるへ成らむ

秋花催興

顕季卿

210
850

世と、ものにのへに心やあくかれむもとあらの萩の花しちらすは

恋催舊意

同人

211
851

思ひ出よあまのかこ山よそののみきゝ、わたらむといつか契し

〔作者〕 待賢門院権中納言

① ^わゑてくる ② 君も久しく ⑤ ちきりをそする

④ 松のしつえの ③ ひちぬれは

〔作者〕 顕季

④ ちとせ (す) むへき

〔作者〕 俊頼

① くら^ゐひ山

〔歌題〕 水石契久〔作者〕 注記ナシ

① そまかはを

〔標目〕 ナシ

〔作者〕 俊頼

① いと (しく) ② (袖) そしほるゝ

〔作者〕 顕季

〔作者〕 同

② あまのかく山 ③ よそに^{のみ}ても
④ きゝてわたらむと

意 情 心

山家春意

橘俊宗

「

已上一座

國基

霞つゝはるゝ時なきやまさとはおほつかなくて春やすきなむ

花駭定心

永源

ともすれはよもの山へにあくかれてゆかすおられぬわか心かな

同座

俊増僧都 陰陽堂

西にのみかへる心をさくらはなよもの山へにあくからすかな

月前遠情

俊頼朝臣

いつもにははれぬや雲も閉られて今夜の月やおほろ成らん」(31オ)

ゝゝ旅情

顕季卿

松かねに衣かたしきよもすからなむる月をいもみるらんか

思 憶 述懷

夜思桜花

能因

さくらさく春はよるたになかりせは夢にも物はおもはさらまし

同

橘元任

あけはまつたかねにゆかむさくら花

(マ)

これはかりたに人におとらし

鶴見大学図書館蔵清輔奥書本『和歌一字抄』翻刻

「」(30ウ)

*日比野本 886 アリ (↓凡例)

〔標目〕ナシ

〔歌題〕花嫁定心

⑤花さかりかな

〔歌題〕ナシ〔作者〕慶増僧都(注記ナシ)

④よしのやまへに

〔作者〕俊頼

②はれぬか雲に

〔作者〕顕季

⑤いもみるらめや

〔標目〕ナシ

〔歌題〕夜思梅花

〔歌題〕ナシ

②たつねにゆかむ ④これはかり(た)に

⑤人におくれし

夜思落花

隆源

220
862

衣手に昼はちりつる桜花」(31ウ) よるは心にかゝるなりけり

雨夜思花

嘉言

221
863

春のよの明もはてすは出ゝみむこよひの雨にはなさきぬらん

~~~~~瞿麦

能因

222  
864

いかならんこよひの雨にとこ夏のけさに露のをもけなりつる

~~~~~萩

長能

223
867

ぬれくもあけは先みむ宮木のゝもとあらの小萩しほれしぬらん

~~~~~月

清成法橋

224  
865

雨ふらぬこよひなりせは月かけの」(32オ) もるにうれしき板間ならまし

~~~~~月

為義朝臣

225
866

立かくすあまのうき雲なかりせはやまの葉いつる月をみてまし

思野花

良暹

226
868

朝ゆふに思心はつゆなれやかゝらぬはなのうへしなけれは

夜思落葉

行宗卿

227
869

おちつめるこのはの色はあかけれとよをてらさぬそかひなかりける

~~~~~山雪

永源

228  
870

冬のよの更行まゝにさゆるかな」四方の山へにゆきやふるらん

⑤雪やつむらむ

②このはも色は③ありけれと

『作者』行宗

①あさつゆに

⑤月はみてまし

『作者』為義

①雨ならぬ

①ぬれつゝも④もとあらの萩

②こ(よ)ひの雨に

②あけしはてすは

見月思都

為義朝臣

229  
871

吾ことをみやこの人もおもふらんたゝにやむへきよはの月かは

思貴人

俊頼朝臣

230  
872

谷川のみかけに朽るもろ菅も雲あるみねのいはねをそ思

花下述懷

経信卿

231  
873

瀧のいとにちりてみたるゝ花みれはぬひたにあへぬ錦なりけり

雨中述懷

念西入道

232  
874

「

知

」(33オ)

瀧音知春

二条院宣旨

233  
879

おちたきり心とけたる瀧のをとにはるきにけりときこゆなる哉

依水知山花

顕季卿

234  
880

ちりかゝるほそ谷川そ山さくらたつぬる人のしるへ也けり

野花知夏

235  
881

いはねとも夏とはみゆるおふるよりあさちましりの山となてしこ

同座

藤時房(33ウ)

236  
882

さひた妻しけりにけらし夏山のすそのゝ道もたえゝにみゆ

早涼知秋

経信卿

鶴見大学図書館蔵清輔奥書本『和歌一字抄』翻刻

〔作者〕為義

①わかことそ②都の月も③おもふらめ

⑤夜半の月かな

〔作者〕俊頼

③まろ菅の⑤いはれにそ思ふ

〔作者〕経信

②ちりてなかるゝ

〔歌題〕心中述懷〔作者〕念西入道

\*日比野本ニムアリ(↓凡例)

〔標目〕ナシ

〔作者〕齋院宣旨

①おちたきる③瀧の糸に

〔歌題〕依水(知)山花〔作者〕顕季

〔歌題〕野草知夏〔作者〕源縁

②夏とはみえぬ

〔歌題〕ナシ

〔作者〕経信

237  
883

うた、ねのさむくも有かなから衣袖のうちにや秋のたつらん

對鏡知身老

無名

238  
884

ますか、みおもてにたゝむしわにこそとしのかさなるかすはみえけれ

不知

恋不知程

俊頼朝臣

239  
887

せきあへぬ涙にてこそわか恋のつもるほとをはしるへかりけれ」(34オ)

不弁

緑竹不弁秋

師経卿 大蔵

240  
891

みとりにて色もかはらぬ呉竹はよのなかきをや秋としるらん

忘

依花忘家

顕季卿

241  
892

世と、ものにのへにや年を暮さましときはにさけるさくらなりせは

花下忘帰

良暹

とふ人も宿にはあらし山さくらちらて帰りし春しなけれは

同題

能宣」(34ウ)

243  
894

ふる郷はかへらむ道もおもほえす花をたつねてきにはきにしを

聞郭公忘帰

顕季卿

244  
896

ほと、きす聲あかなくに尋きていくたの森にいくよへぬらむ

〔作者〕無

④としの(か)さなる

〔標目〕ナシ

〔作者〕俊頼

〔標目〕ナシ

〔歌題〕依竹不弁秋〔作者〕注記ナシ

②色しかはらぬ

〔標目〕ナシ

〔作者〕顕季

②野へにてとしや

〔歌題〕ナシ

①ふるさとへ⑤みにはきにしを

〔作者〕顕季

對泉忘夏

土御門左大臣

〔作者〕土御門右大臣

245 897 結ふ手の秋よりさきに涼しきはいつみの水に夏やこさらん

同

資仲卿

〔歌題〕ナシ

246 898 むすふてのあたりす、しき泉には春くれしより秋やきにけん

同

家経朝臣」(35才)

〔歌題〕ナシ 〔作者〕家経

247 899 したくゝる岩間の水のあたりには 扇のかせをかる人もなし

①したくるゝ、  
マモ

不忘

依月不忘秋

俊頼朝臣

〔作者〕俊頼

248 900 はらの池の蘆間にやとる月かけはわかれし秋のかたみなりけり

未忘春意

経信卿

〔歌題〕未忘春意 〔作者〕経信

249 901 ふるさとの花の盛は過ぬれと面影さらぬはるの空かな

黙

對花黙風

俊頼朝臣

〔標目〕ナシ

250 902 青柳のいともて風をゆひとめて」(35ウ)花のあたりへやらしと思ふ

黙賤恋

同

〔作者〕俊頼

②糸にてかぜを

251 903 あやしきもうれしかりけりをとしむるをの、ちなはにかゝるとおもへは

未飽

望花未飽

関白

④そのことのはに  
〔標目〕ナシ

252 904 今よりは花みぬ身とや成なましあかぬこゝろもくるしかりけり

郭公未飽 行尊僧正

253 905 ほとゝきす只一こゑのなこりとそまつにはまさるなけき也けれ

同 俊頼朝臣「(34才)」

254 906 さしもなそおしみそめけむ時鳥雪のみ山のとりのすゑかは

交

桜柳交枝 俊頼朝臣

255 907 あすもこんしたり桜の枝ほそみ柳のいとにむすはれにけり

比

鹿聲比嵐 同

256 908 三室山しかのなくね<sup>(マ)</sup>うちそへてあらし吹なり秋のゆふ暮

寄

春情寄花 実政卿「(34ウ)」

257 909 春ごとにみるとはすれとさくら花あかてもとしのつもりぬる哉

秋情寄萩 俊頼朝臣

258 910 あき萩を心にかけてをかさきのおほろあしちをなつみてそゆく

情寄女郎<sup>(マ)</sup> 通俊卿

259 911 あさゆふはおもふもしるくをみなへし心へたつた野への秋霧

③名残こそ⑤なけきなりけり<sup>れ</sup>

「歌題」ナシ「作者」俊頼

⑤法の声かは

「標目」ナシ

「歌題」桜。交枝「作者」ナシ

③えたほぞに<sup>(マ)</sup>

「標目」ナシ

②しかのなくねに

「標目」ナシ

「歌題」春情寄風「作者」(実)政卿

④やとめてもとしの

「作者」俊頼

④おほろ<sup>みイ</sup>あし<sup>ちイ</sup>けを

①朝ゆふに②おもふもしらす

⑤のへのあきかせ

同座

永源

260 912 こゝろ有て折もてそみるをみなへしまねく薄のうらむはかりに  
依」(35オ)

依花待春

花園左大臣

261 913 なにとなく年のくるゝは惜けれと花のゆかりに春をまつかな

ゝゝゝ惜春

坂上定成

262 914 匂ふことおりをもわかぬ花ならば春をかきりとなけかさらまし

ゝゝゝ知山花

顕季卿

ちりつもるほそ谷川そ山さくらたつぬる人のしるへなりける

ゝゝゝ知山紅葉

範永朝臣

263 915 色かはる岩間の水をむすはすは尾上のこすゑみにやゆかまし」(35ウ)

ゝゝゝ月明

行宗卿

265 917 かねてより澄池水のなかりせは底さへてらす月をみてまし

ゝゝゝ夏涼

顕季卿

266 918 なかむれは涼しかりけり夏のよの月のかつらに風やふくらん

秋依月勝

橘俊宗

267 919 何事に春のあけほのおとらましさやけき月のあきなかりせは

客依月来

三条大納言

〔歌題〕ナシ

④まねく(す)、きの

〔標目〕ナシ

〔歌題〕依花惜春

〔歌題〕依水知山花〔作者〕顕季

②ほそたつ川ぞ③桜はな

〔歌題〕依水知山紅葉〔作者〕範永

①色よはる

〔歌題〕依水月明

⑤月をみましや

〔歌題〕依月夏涼〔作者〕顕季

〔作者〕橘俊一

268 忘れにし人もとひけり秋のよは月てはとこそ待へかりけれ」(36オ)

依月客来

永源

269 われ獨なかめてのみやあかさまし今夜の月のおほろなりせは

不依

戀不依人

俊頼朝臣

270 くれなひの袖にはつれしまみよりもなれるつゝりのわゝけをぞ思ふ

及

照射及暁

顕季卿

271 ともせとも今宵もあけぬいたつらにあふさか山もかひなかりけり

纒」(36ウ)

花纒残

同

272 さくら花青葉のなかにちりのこるこすゑやはるのとまり成らん

落葉々々

源仲正

273 もみちはのあしろのひをにましらすはちりはかりをもゑりてみましや

纒聞郭公

仲実朝臣

274 ほのかにそ猶なきわたるほとゝきす今夜はかりをなにしのふらむ

自

花自有情

経信卿

⑤待へかりけれ

〔標目〕ナシ

〔作者〕俊頼

④なれかつゝりの⑤わけをぞ思ふ

〔標目〕ナシ

〔歌題〕照射及暁〔作者〕顕季

〔標目〕ナシ

②青はか中に④こすゑは春は

〔作者〕源仲政

④ちるは(か)りをも

〔作者〕仲実

①ほのかにも②鳴わたるなり

〔標目〕ナシ

〔作者〕経信



275  
929

ものをこそいはねと花も心あれ」(37才) さくへきほとを過しやはする

未遍

華未遍

範永朝臣

276  
931

さきはてぬ梢おほかる宿なれははなのにはひも久しくや見ん

郭公不遍

俊頼朝臣

277  
932

ほと、きす月わかしとやおく山のこすゑかくれにこゑならすらん

紅葉未遍

家経朝臣

278  
933

中くにかたえもみちぬ折にこそ青にはゆるいろは見えけれ

猶 尚」(37ウ)

池氷猶残

嘉言

279  
934

むらくにこほりのこれるいけ水はところく春はたつらむ

藤花尚盛

國基

270  
935

やとからか夏になれともふちの花うつろふ色の見えすも有かな

紅葉猶残

通俊卿

281  
936

いかなれはふなきの山のもみちはのあきはすくれとこかれさるらん

各

各行見花

藤敦家朝臣 左馬頭

282  
938

秋はきのささぬるのへを見るのみそ」(38才) 心は人のかはらさりけり

鶴見大学図書館蔵清輔奥書本『和歌一字抄』翻刻

③心あれは

〔標目〕 ナシ

〔作者〕 範成

④花もにほひも

〔作者〕 俊頼

〔作者〕 家経

②かたえもみえぬ④あらはにはゆる

〔標目〕 ナシ

④ところくや

〔標目〕 ナシ

③もみちはは

〔標目〕 ナシ

〔作者〕 藤敦家(注記ナシ)

④心は人に

〔作者〕 藤敦家(注記ナシ)

〔標目〕 ナシ

〔作者〕 藤敦家(注記ナシ)

④心は人に

不改

竹不改色

堀川院御製

千代くれと色もかはらぬかは竹はなかれてのよのためしなりけり

同座

仲実朝臣

葉かへせぬ竹のは末にふくかせのおさまれる世とひゝく暮哉

不異

梅花不異月

嘉言

さかりには月さやかなる梅花ちらはやみにやならんとすらん」(38ウ)

同

毎秋月同

三宮

としふれは潤もせになる水の面にすみかはらぬは秋のよの月

経年同恋

関白

としふれとなと常盤<sup>ナル</sup>。わかこひやいろもかはらぬ住よしの松

似

春雪似花

伊勢大輔

浅みとり春の空よりふる雪ははなちる里の心ちこそすれ

草蛩似露

式部」(39オ)

草しけみをける露かとみえつるはすたくほたるの光なりけり

〔標目〕ナシ

〔歌題〕竹不改<sup>色</sup>世」〔作者〕堀河院

①千代ふれと③くれたけは④なかれて後の

〔歌題〕ナシ」〔作者〕仲実

〔標目〕ナシ

〔歌題〕。花不異月<sup>梅</sup>

④ちらはや(や)みに

〔標目〕ナシ

〔歌題〕毎秋月同

②ふちとせになる

②わかときはなる

〔標目〕ナシ

④(す)たく蛩の

卯花似夕顔

匡房卿

〔作者〕兼房

けさみすはまかひなましを夕かほにかきね。しろくさける卯花

夏月似雪

良暹

夏のよにゆきか<sup>入</sup>と見ゆる月かけの色はきえぬる心ちこそすれ

月光似昼

源頼実

秋のよのくまなき空の月かけはなけきやすらむかつらきの神

水聲似雨

行宗卿〔39ウ〕

むら雨の音にたかはぬ山川にいかてか水のまさらさるらん

池氷似鏡

匡房卿

〔作者〕兼房

風寒みむすひし水のこほれるはけさ見る人のかたみなりけり

如

〔標目〕ナシ

樹陰如秋

同

夏山のこのした風の涼しさにおもひたかへて鹿のなく覧

晩涼如秋

範永朝臣

〔作者〕範永

まつかせの夕日かくれにふく程は夏すきにける空かとぞみる〔40オ〕

國基

夏なれとゆふかせ涼し小萩原した葉やあきの色になるらん

同座

義孝 伊勢守

〔歌題〕ナシ 〔作者〕ナシ 注記ナシ

298

夏の日の暮行そらのすゝしさにあきのけしきを空に知かな

晩風如秋

顕季卿

299

夕されのかせのけしきの涼しさに鹿なきぬへき心ちこそすれ

竹々々々

俊頼朝臣

300

「

松々々々

永胤

「」(40ウ)

301

皆月もなつのこかけの涼しさにはつ秋かせにことならぬ哉

水々々々

俊頼朝臣

302

沢邊なる蛩も風にはかられてけふを秋とや鴈につく覧

水岸如秋

為義朝臣

303

河風のすゝしき程をおもふにはせこかわさたもかりそめぬらん

秋月如昼

隆経朝臣

304

きくの上の露なかりせはいかにしてこよひの月をよるとしらまし」(41オ)

落葉如雨

家経朝臣

305

もみち散をとほ時雨の心ちしてこすゑの空はくもらさりけり

同

頼實

306

木のはちる宿はきゝわくことそなきしくれする夜も時雨せぬよも

竹風如雨

基長卿

④秋のけし(き)を⑤空にしる(かな)

「作者」 顕季

「作者」 俊頼

\*日比野本「8」アリ(↓凡例)

②まつのこかけの③涼しさは

「作者」 俊頼

「作者」 為義

②すゝしき音を⑤かり初つらむ

「作者」 隆経

「作者」 家経

「歌題」 ナシ

307 968 なよたけの音にて袖をかつきつるぬれぬにこそはかせときゝつれ

同 匡房卿

308 969 かせ吹は小篠か原にすむひとはたゝ一村の雨かとそきく」(41ウ)

蘆花如雪 源頼長

309 970 あしのほの浪よるおちのみきにはふるともみえぬ雪そつもれる

草花如玉 顕仲卿

310 971 露すかる尾花かうへをけさ見れば玉ちる袖の心ちこそすれ

菊粧如錦 経信卿

311 972 うつろへは錦にまかふ色をみてむへ」」きくと人はいひけり

遐齡如松 顕季卿

312 973 二葉なるまつを引うへて誰も皆をなしちとせのかけをこそまで」(42オ)

不如

月不如秋 太政大臣

313 975 すみのほる月の桂は常よりももみちの秋やてりまさる覧

毎

每山有春 入道中納言顕基

314 976 わか宿のこすゑはかりとみし程によもの山へに春はきにけり

每家有秋 白河院御製

②おとにそ袖を④ぬれぬにこそは  
⑤かせとしりぬれ

「歌題」ナシ「作者」兼房

④ふるともみえぬ

「歌題」草露如玉「作者」顕仲

②尾花かうれ④たまちる里の

①うつろへは④むへむ(ら菊)と

「作者」ナシ

「標目」ナシ

「標目」ナシ

「作者」入道中納言

「歌題」每家有春秋「作者」白河院

315  
977

やと毎におなし秋をやうつすらんおもかはりせぬをみなへし哉

毎年見花

永源「(42ウ)」

316  
978

としをへて今年はかりと思ひつゝ、おほくの春の花をみる哉

同題

源縁

317  
979

春ことに見れともあかぬ花さくらとしにやはなのさきまさるらん

毎朝臨菊

顕季卿

318  
980

さくの花ささぬる時はめもあはすいく朝露のをきてみるらん

毎夜待郭公

俊頼朝臣

319  
981

ほとゝきすよ比心をつくさせてけふそかすかにほのめかすなり

同

同人「(43オ)」

320  
982

ほとゝきす待にしるしのあらはれはねぬよの数にこゑをきかはや

月每秋友

同人

321  
983

思ひくまなくとも年のへるぬ哉ものいひかはせ秋のよの月

月每水宿

肥後

322  
984

山のはにいて入月はひとつにてあまたの水にすめるかけ哉

皆

山家皆梅花

國基

323  
987

なつかしきかのみこそすれ山里は梅のにははぬやとしなければ」(43ウ)

〔歌題〕ナシ

③山さくら

〔歌題〕毎朝望菊〔作者〕顕季

⑤をきてみつらん

〔作者〕俊頼

④けふかすかに⑤ほのめかすかな。  
る

〔歌題〕ナシ〔作者〕同

③あらされは

〔作者〕同

〔標目〕ナシ

〔歌題〕山家皆梅花

山路皆花

慶基法師

324  
988

やま桜みち見えぬまでちりつみて花のみやこのかたそしられぬ

山皆紅葉

経衡

325  
989

をしなへて山はもみちに成にけり商はときはのもりやなからん

不乏

郭公不乏

俊頼朝臣

326  
990

今こそはふた村山のほとゝきすこゑおりはへてあやになくも

多

梅香夜多

皇太后宮下野〔44オ〕

327  
991

色みえぬ梅のかはかりにほふ哉よるふくかせのたよりうれしく

花契多春

経信卿

328  
992

もゝしきやみかきの原の桜花春したえすはにほはさらめや

松々々々

同

329  
993

春日山たかねにたてる松かえのあひくるはるは神や知らむ

菊送多秋

関白

330  
994

君かよを長月にさく菊花へにける商のかきりなき哉

少〔44ウ〕

花漸少

同

③ちりしきて④花の都（の）

〔標目〕ナシ

〔歌題〕郭公不<sup>ズ</sup>定〔作者〕俊頼

⑤あやに鳴なれ

〔標目〕ナシ

〔作者〕皇后宮下野

①色みえて⑤たよりうれしく

〔作者〕経信

②みかきか原の⑤にほはさらまし

④へにける秋も

〔標目〕ナシ

331 998 日をへつゝこすゑ青葉に成はて、しつゑにのこる花はひとふさ

同座 顕輔卿

332 999 くれて行春の日かすもちる花もなかはにおほく過にける哉

同題 俊頼朝臣

333 1000 葉かくれはしはしもすまへ桜花つゐには風の根にかへすとも

郭公語少 橘成元

334 1002 さみたれをまつちの山の時鳥ほのかになきて過ぬなる哉」(45才)

有

春情在花 顕季卿

335 1003 心みにさてもや春はうれしきと花なきとしにあふよしもかな

同座 顕輔卿

336 1004 吾心はるの山へにあくかれて花ゆへ人にうらみられぬる

毎家有秋 白河院御製

337 1006 やとことにおなし野へをや移す覧おりかはりせぬ女郎花哉

無

無風花散 三条大納言」(45ウ)

338 1008 山桜春のかすみにつゝまれてかせにしられぬ花もちりけり

同座 隆源

②梢あらはに③なしはて、  
④しづくに残る

「歌題」ナシ「作者」顕輔

③ちるはなの<sub>も</sub>

「歌題」ナシ「作者」俊頼

①わかくれは⑤ねにかへるとも

②まつらの山の

「標目」ナシ

「歌題」春情有花「作者」顕季

「歌題」ナシ「作者」顕輔

「作者」白河院

②をなし秋をや④おもか(は)りせぬ

「標目」ナシ

「歌題」ナシ「作者」隆源



339 1009 ふく風にさそはれねとも散ぬれは花をうしとも思ひぬるかな

月光無夜 資仲卿

340 1010 雲晴て更ゆく空の月みれは秋はよるなき心ちこそすれ

雪花無定樹 為義朝臣

341 1011 春またて梅も桜もゆきふれはおなし色なる花そさきける

一 八十九 (46才)

杜若一葉 源仲政

342 1014 こと花はにほはぬさはに紫の一むらこなるかきつはた哉

一葉散林 國房

343 1015 いつしかと初秋風に山しなの岡へのくるす朽葉ちるらし

秋唯一日 藤隆資

344 1016 尋るにあきはけふにて暮ぬめり野へのけしきは露もかはらて

不一

秋花不一 範永朝臣

345 1017 われは猶をみなへしこそ哀なれ (46ウ) 尾上の萩はよそにてもみん

経衡

346 1018 秋くれはちゝに心そわかれけるいつれも花のあかぬにはひに

國房

〔作者〕資仲

〔作者〕為義

〔標目〕ナシ

〔歌題〕杜若一叢〔作者〕源仲正

①こき花はと

①たつぬれは⑤露とかはらて

〔標目〕ナシ

〔作者〕範永

④いつれの花も

347  
1019

色々の花さきけらし秋のゝはをく白露のなにやたかはん

義孝 伊勢守

348  
1020

こまなへて野へに立出ゝなかむれは心々に花さきにけり

不定

尋花處不定

堀川左大臣」(47オ)

349  
1024

おしめとも散もとまらぬ花ゆへに春は山へをすみかにそする

波洗水不定

俊綱朝臣

350  
1025

よし野川ふゝく嵐に波たかみみきはの水むすひかぬらむ

同座

國房

351  
1026

かせふけは浪うちとくる薄こほり過にし春や水にやとれる

為

織女雲為衣

院圓法師

352  
1027

七夕やあまの羽衣かさぬらむほしあひの空のくもりぬる哉」(47ウ)

卯花作牆

俊頼朝臣

353  
1028

うのはなのかきねなりけり山賤のはつきにさらすけふとみつるは

言志

憶牛女言志

堀川右大臣

354  
1032

たなはたは雲の衣を引かさねかへさてぬるやこよひ成らん

⑤ なにかたかはむ

〔作者〕 注ナシ

〔標目〕 ナシ

〔作者〕 俊綱  
堀川右大臣

〔作者〕 俊綱

① 吉野やま

〔歌題〕 ナシ

〔標目〕 ナシ

〔作者〕 隆円法師

〔作者〕 俊頼

④ はつきにさしす

〔標目〕 ナシ

〔作者〕 堀川右大臣

花下言志

三宮

355  
1033

日かけはふふる木に花もさきにけり いさ老らくのかさしにもせむ

即事

七夕即事

資綱朝臣〔48才〕

356  
1036

かつらきの神とこよひの七夕とあくるをいつれなけますらん

於伏見別業即事

俊頼朝臣

357  
1037

わきもことまつむつことのはしめにはひとりふしみの里とかたらん

證歌 百十首

日 日句

358  
1039

あさひかけにはへる山にてる月のあかさるいもを山こしにをいて

月 茜差月

359  
1040

はつせのやゆつもか下にわかゝくし〔48ウ〕たる玉

あかぬさしてれる月よに人みてんかを

暁 夕月

360  
1041

夕つくよあかつき方の朝かけにわか身はなりぬ君を思かね

題不明

361  
1042

天の原ふりさけみれば白まゆみはりてかけたりよみちはよけん

月人

〔標目〕 ナシ

〔歌題〕 七夕即事〔作者〕 資綱卿

② 神もこよひの

〔歌題〕 於伏見別業即事

① わきもこか

〔標目〕 ナシ

〔歌題〕 月日句

② にはへるこゝに③もる月の

⑤ 山こしにをきて

② ゆつきかしたに③は、かくれた玉

④ あかね〔さ〕し⑥人みけんかも

③ 朝かせに④わか身はちりぬ

④ はりてかけたる

362 1043 紅葉するときになれこし月人のかつらの枝のいろつくみれは」(49オ)

月夜宇津呂布

363 1044 ますか、み清き月よのうつろへは思ひはやます恋こそまされ

松葉月移

364 1045 まつのはに月はうつりぬ紅葉、のすきぬや君にあはぬよおほく

夕月

365 1046 あし引の山をこたかみゆふ月をいつかと君をまつかくるしき

月網<sup>二</sup>指

366 1047 久堅の空ゆく月をあみにさし」(49ウ) わか大君はかさしにさしたり<sup>な</sup>

月夜渡

367 1048 こそみてし秋の月よはわたれとも相見しいもはいやとをさかり

萩<sup>ヲ</sup>瑩

深養父

368 1049 いく世へて後かわすれむちりぬへき野へのあき萩みかく月よを

身<sup>ニ</sup>移

善朝臣

369 1050 あきのよの月の影こそ木の間よりおち葉衣と身にうつりなめ

露底<sup>二</sup>宿

藤景名」(50オ)

370 1051 白露のそこに光はうつれともとまらてそゆく秋のよの月

牛女 牽牛女渡

②時になるらん

『歌題』月夜宇津呂布<sup>呂布</sup>

①ま(す)か、み③うつらへは

②山をたよりに③ゆふつくよ

⑤まつかくるしき

『歌題』月網指

⑤かさしにな<sup>し</sup>れたり

⑤いやとをさかる

『歌題』萩越瑩

②のちにわすれむ

『歌題』身々移

②。のかけこそ⑤みにうつりな<sup>けれ</sup>め

『歌題』露底宿

『歌題』牛如<sup>女牽牛</sup>如渡

371  
1052

天河きりたちわたり彦星の 梶をときこゆ夜のふけ行は

織女渡

兼輔卿

372  
1053

たなはたのかへるあしたの天河舟もかよはぬ波もたゝなむ

題不明

373  
1054

逢はかりうれしきことはなけれどもわかれて後そわひしかりける」(50ウ)

雲 雲飛

374  
1055

久かたの天飛雲にありてしか君にあひみておくるひなしに

八雲差

人丸

375  
1056

やくもさすいづものこらかくるかみはよしのゝ川のおきへなつさふ

雲伊左与布

376  
1057

ひとねろにい はる物からあをねろをいさよふ雲のよそりつまはも

風 風色

377  
1059

ふくかせの色のちくさにみえつるは」(51オ) 秋の木の葉のちれは也けり

秋之木枯

378  
1060

こからしの秋のはつかせ吹ぬるをなとか雲ぬに鴈のをとせぬ

雨 雨棚引

379  
1061

はるさめのたなひく山の桜花はやくみましをちりうせにけり

雨露

② 霧たちわたる

『作者』 兼輔

『歌題』 雲々飛

③ ありてしる ⑤ たへるひなしに

『歌題』 八雲老

② いづものこへか ③ くらかみは

⑤ たきはなつそふ

② いわかもから ④ いさ(よ) ふ雲

⑤ よなりつまは(も)

『歌題』 秋木枯

④ なとや雲井に

① 春かすみ ③ 花 ⑤ ちりうせぬ間にけり

『歌題』 雨露

380 1062 ときまちて落る時雨のあめやみてあさかの山はうつろひぬらん

秋時雨 兼覧王 (51ウ)

381 1063 おしむらん人の心をしらぬ間にあきのしくれと身そふりにける

霞 秋霞

382 1064 商のたのほの上きりあふ朝霞いつへのかたにわか恋やまん

木葉凌

こちかてをまきやまにはされは(ママ)このはしめて霞たなひく(ママ)

霞居

383 1065 かすみぬるふねのたかねにわかきなはいつちこてかいもなけかむ(ママ) (52オ)

霞流

春かすみなかるゝともにあを柳のえたくひもちて鶯そなく

花色同霞

385 1067 立わたるかすみのみかは山たかみみゆるさくららの色もひとつに

霧 春霧

386 1068 春山のきりにまかへる鶯もわれにまさりておもふらんやそ

夏霧

朝きりにやへ山こえて郭公 (52ウ) 卯花へからなきて過なり

露 春露

遍昭

④あさかのぬまは

『作者』兼覧王

④秋のしくれもと

④いつれのかたに⑤わかこひやみせん

『歌題』木霞渡

①こかしきと②まき(ママ)もくやまに

③。されは④この葉しのしのきて

②ふしのたかねに③わかへなは

④いつちこてか⑤いもかなけかんけるも

⑤いろもひとつを

『歌題』霧春

②霧にまかへる③鶯もかと

⑤おもふらんやと

②やよ山こえて④うのはななめから

389  
1071

あさまたきいとよりかけて白露を玉にもぬける春のあをやき

露寒

390  
1072

あきのよは露こそことに寒からし草むらことに虫のわふれは

露置積

391  
1073

秋のゝいかなる露のをきつめはちゝの草はの色かはるらむ

霜 春霜」(53オ)

392  
1075

春くればみくさの上にをく霜のきえつゝもわれは恋わたる哉

秋霜

393  
1076

あき山にしもふりおほひこのはちるとしはゆくともわれ忘めや

霜陰

394  
1077

しもくもりせむとにかあらん久堅の夜わたる月のみえすと思へは

雪 雪光

395  
1078

おほ宮のうちににもとにもひかるまでふれるしらゆき見れとあかぬかも」(53ウ)

鶯妻

396  
1080

春されはつまをもとむと鶯のこすゑをつたひなきつゝもとて

渡(ママ)

二条后

397  
1081

雪のうちに春はきにけりうくひすのこほれるなみた今やとく覧

笠縫

①あさまたきみとり④玉にもぬ(ける)

⑤虫のわれはふむ

④ちゝのこのはの

④きえてもわれは

⑤われわ。すれめや

②せひとにかあらむ

②うちに(ママ)にもとにも⑤みれとあかかぬも

①春なれは⑤なきつゝ(ママ)もとて

「歌題」渡涙

398  
1082

青柳をかたいによりて鶯のぬふてふかさは梅のはなかさ

題不明

〔作者〕敦忠<sub>素性</sub>

399  
1083

こつたへはをのか羽かせにちる花をたれにおほせてこゝらなく覧」(54オ)

雲居鳴

敦忠卿<sub>或本  
顯忠卿</sub>

〔作者〕ナシ

400  
1084

うくひすの雲井にわひて鳴聲を春のさかりとわれはきゝけり

郭公聲<sub>ヲ玉貫</sub>

〔歌題〕郭公声玉貫

401  
1085

ほとゝきすなかはつこゑをわれみゆとさつきのたまにまかせてぬきてん

涕泣

②なかはつ声は③われみれと  
⑤ませてぬきてん  
〔歌題〕涕泣<sub>泣</sub>

402  
1086

こゑはして涙はみえぬほとゝきすわか衣手のひつをからなん

獸郭公

④わかごろも(て)の

403  
1087

夏山になくほとゝきす心あらは」(54ウ)ものおもふわれにこゑなきかせそ

妻恋

404  
1088

たひねしてつま恋すれは時鳥神なひ山にさよふけてなく

題不明

侍從佐理

⑤さよふけてけり<sub>なく</sub>

405  
1089

さみたれにふりいてゝなけと思へともあすのためとやねをつくすらん

喚子鳥 夜鳴

②ふり。てはなけと⑤ねをのこすらん<sub>出</sub>

406  
1090

人しれぬ寝さめの恋はよふこ鳥よふかきこゑをきくそ悲しき

鴈 鴈使」(55オ)



407  
1092

春草をむまくひの山にこえくれはかりの使はやとりすくなり

幾嶋

408  
1093

いもかあたりしけき鴈かねこの夕きなきて過ぬとしきまてに

稲負鳥 涙

忠岑

409  
1094

山田もるあきのかりいほにをく露はいなおほせとりのなみた也けり

千鳥 千世<sup>ト</sup>鳴

410  
1095

しほの山さしての磯になく千鳥君か御代をはやちよとそなく」(55ウ)

鶴 加介留

411  
1096

もかり舟おきにこくらしいもか嶋かたみのうらにたつかけるみゆ

松虫 千世<sup>ト</sup>鳴

412  
1097

ちとせとそ草村ことにきこゆなるこやまつむしのこゑには有らん

日久良志 幾鳴

413  
1098

夕影にきなくひくらしこゝたゝの日ことになけとあかぬこゑかも

蝦蟇 妻呼

414  
1099

かみつせにかはつらまよふ夕暮は」(56オ)衣手さむみつまたんかも

鹿 幾鳴

415  
1100

わかをかにさをしききなく初秋の花のつまとひにきなくさをしか

馬 鳴

②むまくひやまに③こえ<sup>レ</sup>くれは

④きなきて過ぬ

〔作者〕ナシ

②秋のかりたに

③<sup>す</sup>鳴ちとり④君かみちよ。<sup>を</sup>

〔歌題〕鶴 加介留兼 賀雨

①も<sup>か</sup>ゝり船②をきこくらし③いも<sup>い</sup>か鳴<sup>こ</sup>

〔歌題〕松虫千世鳴〔作者〕兼盛

③こゝ<sup>え</sup>た<sup>す</sup>の④ひ<sup>こ</sup>し<sup>こ</sup>になけと  
⑤あかぬこゑかな

②よ<sup>か</sup>はつゝま<sup>ふ</sup>より④ころもてさむし

③はつ秋<sup>秋イ</sup>の④はなつ(ま)と⑤も<sup>ひ</sup>に

416  
1101

ころもてをあしけのこまのなくこゑも心ありかもつねにけてなけ

梅 雪<sup>二</sup>開

417  
1102

淡雪にふられてさける梅花きみかりやはよそへてんかも

猷梅<sup>一</sup> (56ウ)

418  
1103

宿近く梅花うへしあちきなくまつ人のかにあやまたれけり

柳 青柳

笠沙弥満誓

419  
1104

あをやなきむめの花とを折かさしのみての、ちはちりぬともよし

柳 柳機

伊勢

420  
1105

あをやきの糸よりかけてをるはたをいつれのやとの鶯かきく

桜 照

421  
1106

あしひきの山へをてらすさくら花この春雨にちりぬ<sup>(マ)</sup>らむ<sup>(オ)</sup> (57オ)

題 不明

422  
1107

ふく風にあつらへつくる物ならはこの一もとはよきよといはまし

山 桜栽

遍昭

423  
1108

いそのかみふるの山へのさくら花うへけむときをしる人そなき

躑躅 濱<sup>二</sup>生

424  
1109

山こえてとをつのはまの岩つゝしわかくるまではふしみてあれまて

卯花 匂

④心ありかも⑤つねにけをなけ

『歌題』梅雪開

④待人のかと<sup>に</sup>

『作者』ナシ

『作者』ナシ

⑤うくひすかさる

⑤ちりぬらむかも

④この一枝は

『作者』ナシ

『歌題』躑躅濱生

⑤ふしみてあ。しにく

425  
1110

白妙に、ほふかきねのうのはなは」(57ウ)「

紅葉 句

426  
1111

もみちはのにほひはしけれかれともつまなしのきをたをりかさゝん

宇津呂布

427  
1112

紅葉、は今はうつろふわきもこかまたむといひし時のつゆけは

題不明

428  
1113

なをさりに秋の山へをこえゆけは錦をきぬにきぬ人そなき

款冬 野山吹

家持

429  
1114

いもに、る花とみしより我しめし」(58オ)のへのやまふき誰かたをりし

安知佐井 八重開

430  
1117

あちさゐのやへさくことくやへをにもいませわかせこみつゝしのはむ

如郎花 宇津呂布

貫之

431  
1118

たか秋にあらぬものゆへ女郎花など色に出ゝまたさうつろふ

萩 露<sub>ニ</sub>散

432  
1119

この比のあきかせ寒み萩の花ちらす白つゆをきにけらしな

槿 夕咲」(58ウ)

433  
1120

あさかほは朝露をきてさくといへとゆふかけにこそさきまさりけれ

紫苑 題不明

③うのはなの④うくもきてとふ  
⑤人のなきかな

『歌題』紅葉不句

①もみち葉は②句ひはしけれ③しかれとも

④つれなく軒を⑤たをりかさらん

『歌題』宇津呂布

⑤ときの露けさ

④にしきをきぬも

『作者』ナシ

⑤たれかなをりし

『作者』ナシ

③やえをたも④いまもわかせこ

⑤みつゝしのかん

『歌題』女郎花宇津呂布『作者』ナシ

④なに色にいて、

『歌題』萩露散

②秋かせさむみ⑤をきにけらしも

『歌題』槿夕咲

③さくといへはと

434  
1121

秋の、に色なき露はをきしかとわかむらさきに花はそみにき

龍膽 題不明

435  
1122

した草のはなをみつれば紫に秋さへふかくなりけるかな

菊 菊散

業平

436  
1123

うつしうへて秋なき時やさかさらん花こそかれめねさへちらめや」(59オ)

菅 菅根乱

437  
1124

いなといへはしひむやわかせすかのねの思ひ乱て恋つゝやあらん

苔 木葉生

438  
1125

あたへ行をすての山の槇のはも久しくみねはこけおひにけり

花 題不明

439  
1126

よと川のみなそこさへに照るまでにみかさの山はさきにける哉

花下紐

藤惟成

440  
1127

いつしかとゆきてやはみぬ秋の、の」(59ウ)花のしたひもとけはてぬらん

山 筑波祢山

441  
1128

つくはねの山のおもとに住人はこのもかのもとに秋をみるらむ

川 伊曾

442  
1129

さゝれなみうきてなかるゝ初瀬川よるへきいそのなきかわひしさ

池 同

『和歌』ナシ

『歌題』ナシ

①うつしうへは④花こそちらめ

⑤ねさへかれめや

②しおむやはかせ⑤こひつゝもあらん

『歌題』苔木葉生

①いとかはの③てるまでは④三笠の山も

②ゆきてや。みぬ

『歌題』山筑波祢山

①さゝ波に

『歌題』池伊曾

443  
1130

君か家のいけの白浪いそよせてしはく見ともあかぬきみな

海 輪多ノ底 古久」(60才)

444  
1131

わたの底おきこく舟をへによせむ風もふかぬか浪もたゝすて

輪多津海之手

445  
1132

わたつみのてにまきもたる玉故にいそのうらはにあさるつる哉

浪 水底波

山邊御井

446  
1133

みなそこのおきつ白波たつた山いつかこえなむいかあたりを

釵 玉釵

447  
1134

たまたちをまきぬるいもかあらはこそよのなかくもうれしかるへき」(60ウ)

弓 絃寸久

448  
1135

みちのくのあたちのまゆみつるすけてひかはか人のわれをことなさむ

簾 玉簾 無簾

449  
1137

たまたれのあみめのまより吹風のさむくはそへていれん思ひを

枕 船路草枕

450  
1138

あをによしならの都にゆく人も哉くさまくらたひゆく舟のとまりつけんに

獨寝手枕

451  
1139

ひとりぬるわか手枕をひるはほし」(61才) よるはぬらしていくよへぬらむ

紐 紐緒

④ しはしみとも

⑤ 波もたゝすく

〔歌題〕 輪多津海手

① わたつみの ③ 玉ゆへに

⑤ あさりするかな

④ いつかこえけん ⑤ いもかあたりみん

〔歌題〕 ナシ

〔和歌〕 ナシ

② ならの都に行人もかも ③ 草の枕

⑥ とまりつけ南

④ よるはくらして

452 1140 白妙の我ひものをのたえぬ間にこひむすひたりあはん日までに

鬢 紫色

453 1141 紫のいろのかつらを花かはにけふみむ人にのちこひんかも

雑々 荒玉月

454 1150 秋はきの下葉もみつるあら玉の月のつゆけは風はやきかも

荒玉無年

無名「(61ウ)

455 1151 またあかぬ程にわかれしあら玉の恋しきかけそこよひこそ見れ

袖返見夢

456 1152 白妙のそて打かへしこふれはかいもかすかたのゆめにしみゆる

鼻比弓見人

457 1153 まゆねかきはなひゝもとき待らんかいつしかみむと恋くるわれを

遠地

458 1154 この比はこひつもあらむ玉くしけあけてをちよそすくなかりける」(62オ)

左々浪比良 凡以江州稱左々浪  
證哥書不注之

459 1155 さゝ波やひらの山風うみふけは釣するあまの袖かへるみゆ

伊曾神奈良

大輔

460 1156 いそのかみならの都のはしめよりなれにけりともみゆる比かな

敷妙無枕

藤高経

③たえぬますに

⑤のくこひんかも

〔歌題〕荒玉月

①あら玉の②した葉もみちる

④月のはゆけは⑤かせは秋かせ

〔歌題〕荒玉無事「作者」ナシ

②程にやかれし④恋しきかけを

〔歌題〕鼻比立見人

③まつらしか

②こひつゝもおらん④あけておちより

⑤すへなかるへし

〔歌題〕三称左々波 証 哥尽加注(左注)

④つりす(る) あまの

〔歌題〕伊曾ノ神奈良「作者」太輔

461  
1157

夏のよはあふ名のみしてきたへのちりはらふまに明そしにける

用音哥

仁孝僧都

462  
1159

けふそくを、しまつきにてまさいませ」(62ウ) 花のさかりをこらんしつゝら

和音用訓哥

亭子法皇幸於  
花山之時遍昭詠之

463  
1160

まてといはゝいともかしこし花の山しはしとなかむ鳥のねもかな

随使旁詞哥今ヲ馬ト云

能宣

464  
1161

なしといへはおしむかもとやおもふらんしかや馬とそいふへかりける

詠物名用同名物哥題桂宮

源忠

465  
1162

安藝くれと月のかつらのみやはなる」(63オ) ひかりを花とちらすはかりそ

犯傍題哥

三条太政大臣家哥會  
題水上秋月岸邊秋花

兼盛

466  
1163

紫の雲とそ見ゆる月かけにみつの面てらす兼盛きしのあき萩

和歌一字抄

已上九百三十首

予為助不肖之性聊抄出之」(63ウ)

而未切磋不慮披露之間自及

射山之叡覽 命云珍重書

鶴見大学図書館蔵清輔與書本『和歌一字抄』翻刻

〔歌題〕用音哥〔作者〕仁孝僧都

⑤こらんしつゝも

〔歌題〕和音用似哥〔歌題〕…花山時…

④しはしといはむ⑤とりの音も願

〔歌題〕随使旁詞哥〔作者〕能宣

〔歌題〕詠物名同名物哥題桂宮

①秋くれと④ひかりをたまと

〔歌題〕…大臣哥合題水上秋…

④みつの面てる

〔尾題〕和歌一字抄 已上九百三十首

\* 日比野本與書ナシ

也但 御製相交尤不可 且除  
 却之且廣撰定可上獻依  
 勅命重加琢磨 仁平四年孟  
 夏之比 奏覽之於以前流布  
 之本不可指南耳 草案本  
 或貴所被召籠畢 仍保元  
 二年五月下旬以或本書寫」(64才)  
 之僻事等自以見直之銘心  
 之故也

藤原清輔撰之」(64ウ)

」(遊紙三丁)